



火 災

スプリンクラーがついていないものはできるだけ避ける

ビルの地階でも、ある程度床面積の大きなものにはスプリンクラーが設置されていますし、階段も二方向にありますから、「地下街」と同程度の危険性と考えるとよいでしょう。

また、ごく小規模のものなら階段までの距離が短いので、窓のない小規模ビルなどに比べて避難が特別に難しいという程ではありません。



やっかいなのは、地階の一フロアの床面積が一、〇〇〇平方メートル未満でスプリンクラーがついていないの

に、地下何階にもわたって幾つもの飲食店や店舗が入っていて、避難階段が二つしかないようなものです。このよ

うなところで火災が発生した場合に、とにかく早く逃げ出さないと大変なことになります。火災の発見が遅いと、初期消火に失敗する可能性も高くなり

ますし、避難の開始も遅れますから、逃げ遅れる危険は極めて大きくなります。まして階段から遠いところに

いて、おまけに酔っていたりすれば、避難は極めて難しいでしょう。窓がありませんから、ホテル火災の場合と違って、籠城して消防隊の救助を待つ、という選択枝も危険性が高過ぎます。

これまで日本で、この種の地階の火災で多数の死者が発生したことはありませんから、実際にある地下の商店街は、スプリンクラーがついているか、ごく小規模で避難がそれほど難しくないものが大部分なのでしょう。

いづれにしろ、この種の建築物の地階を利用する場合には、せめてスプリンクラーの有無を確かめた方がよいでしょう。ある程度大きな地下商店街な

のにスプリンクラーがついていないなら、できるだけ利用するのは避ける方が賢明です。

小規模なものならスプリンクラーがついていなくてもそう神経質になることはありませんが、階段の位置などは覚えておく方がよいでしょう。



超高層ビルの火災

超高層ビルは、スプリンクラーを初め、防火安全対策が完備しているのですが、火災になってもあわてることはありません。我がちに避難階段に殺到するとかえって危険です。指示に従って、落ち着いて避難しましょう。

超高層ビルの防火安全対策

超高層ビルは消防自動車のはしごが届かない部分があるので、火災が発生すると消防隊による消火、救助活動が難しく、地下街などと同様火災危険性が非常に高いと考えられています。

このため、高層部分には必ずスプリンクラー設備が設置されていますし、内装の不燃化や防火区画の細分化も徹底され、火煙からの防護性能の高い「特別避難階段」の設置や消防隊の用いる「非常用エレベーター」の設置も義務

づけられるなど、地下街と同様に万全の防火安全対策が講じられています。

超高層ビルで火災が発生したら

超高層ビルにいるときに、「火災が発生した」という非常放送があったらどうしたらよいでしょうか。

超高層ビルには通常スプリンクラー



●避難誘導に従って落ち着いて避難すればまず安全

設備が設置されていますので、普通は火災が発生してもスプリンクラーで消火されてしまいます。多少の混乱はあるかも知れませんが、パニックを感じる間もなく消火されて一件落着となるケースがほとんどでしょう。

避難誘導に従う

超高層ビルの避難経路は「特別避難階段」という、「附室」のついた特に火煙の防護性能の高い階段です。ここに入ってしまったえば一応安全ですが、高層部分にいる場合は、そこから何十メートルも徒歩で降りて行かなければなりません。

また、全員が一斉に避難を始めるのと、少数の「特別避難階段」に各階から避難者が集まりますから、階段スペースが避難者でいっぱいになってしまう事



火災

態も起こります。

とくに一番最初に避難する必要がある火災階の人たちが階段室に入ろうとしたら、既に上階からの避難者で階段がいっぱいになっていて入れない、という事態も考えられます。



火災階以外の階の人は指示があるまで避難しない

超高層ビルの場合、火災が発生したら、火災階にいる人で自衛消防の役割を持っている人以外の人は、避難誘導に従って速やかに避難を開始します。

火災階より上階にいる人は、ほとん

どの火災はスプリンクラーで消火される、ということを通じて、避難することとはとりあえず控えます。



火災階にいる人が全員階段室に収容できたら次に上階の人が避難する、という段取りになり、火災階より下の階にいる人は、一番最後に避難することになります。いずれにしろ、超高層ビルの場合は避難が必要になるほど火災が燃え広がることはない、と考えて、落ちついて避難誘導の指示に従い、「必要なら」そのときにタイミングよく避難すればよいのです。

